

## 資料編

資料1	市勢の概況	42
資料2	環境を取り巻く現況と課題	48
資料3	吹田市環境審議会委員名簿	52
資料4	本計画の策定経過	53
資料5	吹田市環境基本条例	54
資料6	環境年表	59
資料7	関係室課一覧	64
資料8	本計画に関連する計画	66
資料9	環境目標	71
資料10	エネルギー消費量の推計方法	83
資料11	用語解説一覧	85

資料1 市勢の概況

1 位置・地形

本市は、大阪市に隣接した府北部に位置し、東西6.3km、南北9.6km、面積36.11km<sup>2</sup>で、標高は1.5mから115.7mとなっています。

北は箕面市、南は安威川、神崎川を境にして大阪市に接し、東は摂津市、茨木市、西は豊中市に隣接しています。(図1)

北部はなだらかな千里丘陵が続き、南部は安威川、神崎川及び淀川が形成した沖積低地となっています。

市域をほぼ南北に山田川、正雀川、糸田川、高川などの河川が流れ、安威川、神崎川に注ぎ、大阪湾に流入しています。また、水遠池、春日大池、釈迦ヶ池などのため池が残っています。

(図2)

図1 吹田市の位置



2 気候

本市は、瀬戸内気候に属する温帯な気候で、平成24年(2012年)の年平均気温は16.6℃、真夏日、猛暑日の日数は、それぞれ79日、24日となっています。年間降水量は1,411.0mm、風向きは年間を通じて北北東ないし東、もしくは西ないし南西から吹く風が多く、平均風速は

図2 吹田市の地形



※明治19年測量図をもとに作成

2.5m/sとなっています。

長期的に年平均気温を見ると、この10年間(平成15年〔2003年〕～平成24年〔2012年〕)では17.4℃となっており、その前の10年間(平成5年〔1993年〕～平成14年〔2002年〕)の17.5℃と比較して、同様の状況となっています。(表1)

表1 吹田市の気温(10年間の平均)の推移

平均気温	平成5年～平成14年 (1993年～2002年)	17.5℃
	平成15年～平成24年 (2003年～2012年)	17.4℃
最高気温	平成5年～平成14年 (1993年～2002年)	37.7℃
	平成15年～平成24年 (2003年～2012年)	37.7℃
最低気温	平成5年～平成14年 (1993年～2002年)	-1.5℃
	平成15年～平成24年 (2003年～2012年)	-1.5℃

(平成24年版 吹田市統計書)

### 3 人口

本市の平成24年(2012年)現在の人口は、356,167人(世帯数158,925世帯、1世帯あたりの平均人員2.2人、人口密度9,863人/km<sup>2</sup>)です。

昭和15年(1940年)の市制施行時に66,094人であった人口は、昭和30年代から急激に増加し、平成15年(2003年)には35万人に達しました。

現在も世帯数の増加が続いており、人口についてはピークを迎えつつあります。(図3)

図3 人口世帯数推移

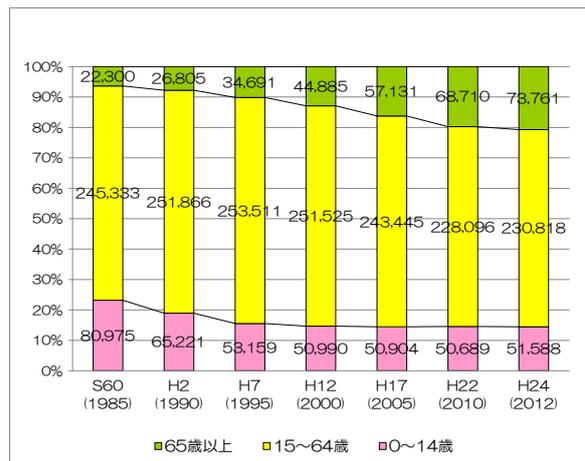


(平成24年版 吹田市統計書)

平成22年(2010年)と平成12年(2000年)の人口構成を比較すると、14歳以下の人口減少、65歳以上の人口増加となっており、少子高齢化が進んでいます(図4)。今後もこの傾向は一層進むと見込まれています。

また、世帯数が増加する中で一世帯あたりの人員は年々減少しており、世帯規模の縮小化が進んでいます。高齢者をはじめ、学生や社会人の一人暮らしが増加しています。

図4 年齢構成比の変化

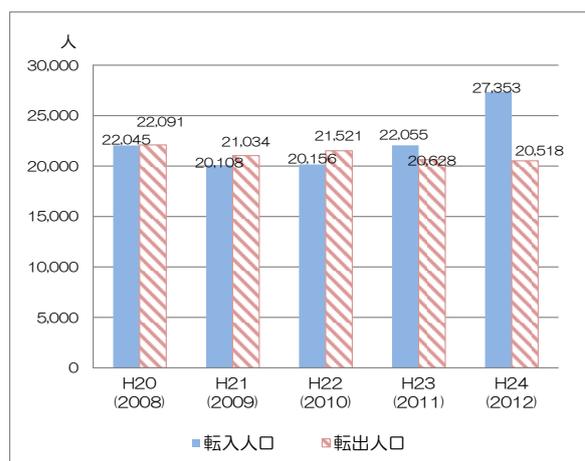


(平成24年版 吹田市統計書)

市内に4つの大学が立地していることから、人口に占める学生の割合が高く、それに応じて地域活動などへの積極的な参加も見られます。さらに、転入や転出により2万人を超える市民の入れ替わりが10年以上続いており、環境保全に係る啓発などが定着しにくい側面をもっています。(図5)

これらの家族構造の変化は、家庭での電気・ガスなどのエネルギー消費やごみの収集運搬などに変化をもたらしていると考えられます。

図5 転入人口と転出人口の推移



(平成24年版 吹田市統計書)

※平成24年度(2012年度)の転入者数が多いのは、外国人登録法が廃止され、外国人住民に住民基本台帳法が適用されるようになったため。

#### 4 土地利用

昭和30年代（1955-64年）の高度経済成長以前には、南部平野部の水田地域と北部丘陵部の果樹、野菜、竹林（タケノコ）などを栽培する農地・山林が約70%を占めていましたが、千里ニュータウンの建設、日本万国博覧会の開催などを契機に開発が進み、農地・山林は激減しました。平成23年（2011年）3月31日現在、市街地として利用されている面積は全体の約63.3%で、学校、鉄軌道敷・道路、公共施設を加えると全体の約81%になります。（表2）

表2 土地利用の現況

分類	面積 (ha)	総面積に対	
		する割合 (%)	
市街地	一般市街地	1,974.0	54.7
	商業業務地	184.3	5.1
	官公署	7.3	0.2
	工場地	120.1	3.3
	公園・緑地	309.8	8.6
普通緑地	遊園地・運動場	137.6	3.8
	学校	281.1	7.8
	公開庭園・社寺敷地	12.5	0.3
	墓地	0.8	0.0
	農地	田	13.1
	畑	55.9	1.5
山林		18.9	0.5
水面		65.2	1.8
荒無地・低湿地		26.4	0.7
公共施設		77.7	2.2
鉄軌道敷・道路		292.5	8.1
その他空地		34.4	1.0
合計		3,611.0	100.0

（都市計画基礎調査、平成23年（2011年3月31日現在））

※1：項目は都市計画基礎調査分類による。

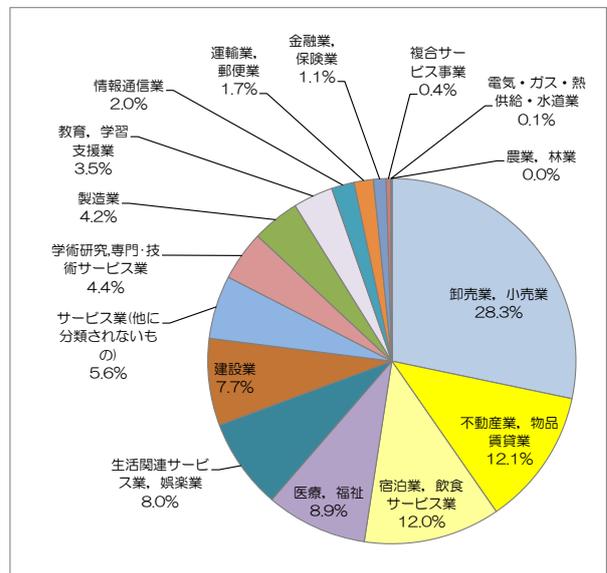
※2：面積は、おおむね0.5ha以上のまとまりあるものを測定。

#### 5 産業（農業・工業・商業）

市内の事業所の産業分類を見ると、農林水産業などの第1次産業はごくわずかで、製造業、建設業などの第2次産業は11.9%（建設業7.7%、製造業4.2%）に留まり、卸売業・小売業（28.3%）、不動産業・物品賃貸業（12.1%）、宿泊業・飲食サービス業（12.0%）などの第3次産業が、合計で約88.1%となっています。（図6）

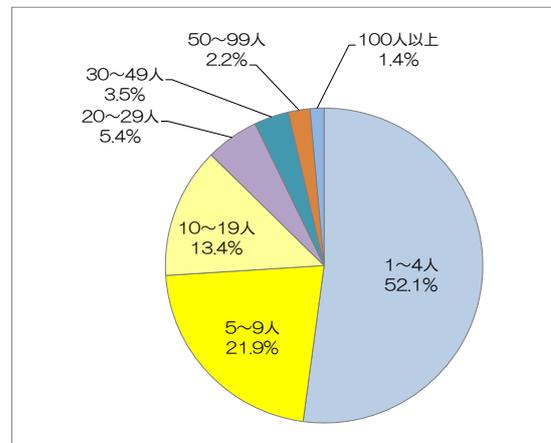
事業所の規模別で見ると、10人未満の事業所が74.0%を占めています。（図7）

図6 業種別事業所数割合



（平成24年 経済センサス）

図7 従業者規模別事業所数割合



（平成24年 経済センサス）

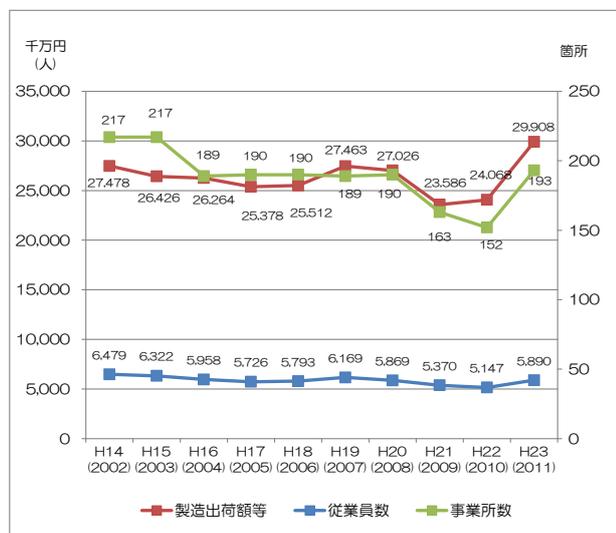
### (1) 農業

農業は、平成22年（2010年）2月1日現在で、販売農家数80戸（うち専業農家数は18戸）、経営耕地面積は約67haとなっています。平成17年（2005年）からの5年間で、販売農家数で16戸、経営耕地面積で約8ha減少しています。

### (2) 工業

工業は、全体に占める割合は大きくありませんが、交通の便の良い神崎川及びJR東海道本線沿いにビール工場や化学、金属など大小の工場が集積しており、平成23年（2011年）12月31日現在で全事業所数193事業所、従業員は5,890人、製造品出荷額等約2,991億円となっています。（図8）

図8 市内製造業の製造品出荷額等と従業員数、事業所数



※平成22年以前は工業統計、23年度は経済センサス（確報）の結果である（従業者4人以上の事業所）。

### (3) 商業

商業は、鉄道駅を中心に商店街が形成され、大規模小売店舗も立地しています。経済センサスによると、平成24年（2012年）現在で、卸売業・小売業の事業所数は3,100事業所、常時従業員数34,398人、年間商品販売額1兆5,955億円です。また、平成24年（2012年）6月の3,000㎡以上の大規模店舗は、平成14年（2002年）6月からのおよそ10年間で6店舗増え、13店舗となっているなど、商業の活性化が民生業務部門における温室効果ガス排出量の増加の一因であると考えられます。（表3）

表3 大規模店舗立地数の推移

年度	規模	店舗数	業態別
平成14年 (2002年) 6月	1000㎡以上	38店	スーパーマーケット16店 小売市場3店 専門店10店 ホームセンター4店 その他5店
	うち 3000㎡以上	7店	—
平成24年 (2012年) 6月	1000㎡以上	43店	スーパーマーケット18店 小売市場2店 専門店12店 ホームセンター4店 その他7店
	うち 3000㎡以上	13店	—

（平成24年版 吹田市統計書）

図9 学術研究機関位置図



6 学術研究機関

北部に大阪大学及び千里金蘭大学、中部に関西大学、南部に大阪学院大学の計4大学があり、留学生なども含め多数の学生が市内で学んでいます。

さらに、国立循環器病研究センター、国立民族学博物館や国内でも有数のライフサイエンス研究機関が北部を中心に設置され、充実した文化・学術・研究環境が形成されています。(図9)

なお、国立循環器病研究センターについては、JR岸辺駅周辺への建替移転が予定されています。

7 交通

鉄軌道としては、JR東海道本線、阪急京都線、阪急千里線、大阪市営地下鉄御堂筋線・北大阪急行、大阪高速鉄道大阪モノレール線・彩都線の7路線があり、市内には14の駅があります。(図9)

路線バスは阪急・近鉄・京阪バスの3社、14路線、147停留所があります〔平成23年(2011年)現在〕。また、千里丘地区では、本市のコミュニティバスも運行しています。

道路は、名神高速道路、中国自動車道、近畿自動車道の3高速自動車国道と、大阪中央環状線、大阪高槻京都線、国道423号(新御堂筋)、国道479号(大阪内環状線)、吹田箕面線、豊中摂津線などを骨格とした道路網が通っています。(図10)

図10 道路交通網



市内鉄道駅の乗客数は、阪急電鉄では2,920万人、北大阪急行電鉄では1,276万人、大阪モノレールでは399万人、JR西日本では1,316万人となっています〔平成23年（2011年）現在〕。

自動車交通量は、平成22年度（2010年度）全国道路街路交通情勢調査によると、名神高速道路「茨木IC-吹田JCT間」が、高速道路の平日昼間12時間交通量で全国6位（81,387台/12h）となっています。

一般道路昼間12時間交通量は国道423号（新御堂筋）「南吹田5丁目」が、平日90,191台/12hであり、全国有数の交通量となっています。（表4）

表4 市内路線での平日車両交通量

（単位：台）

調査地点	平成17年 (2005年)	平成22年 (2010年)	増加率
大阪中央環状線 山田東2丁目	11,534	10,995	-4.7%
新御堂筋（国道423号） 南吹田5丁目（本線）	98,977	90,191	-8.9%
新御堂筋（国道423号） 江坂町（本線）	65,200	62,465	-4.2%
大阪中央環状線・ 万博公園進歩橋	73,444	64,982	-11.5%
熊野大阪線・ 豊津町	3,696	3,701	0.1%
豊中摂津線・ 山田西1丁目	12,377	13,820	11.7%
吹田箕面線・ 千里山西1丁目	4,512	4,516	0.1%
相川停車場線・ 内本町3丁目	7,552	7,901	4.6%

※観測時間午前7時～午後7時  
（平成24年版 吹田市統計書）

自動車登録台数は、平成23年（2011年）現在で117,152台であり、微減傾向にあります。一方、軽自動車は過去5年間で約2,000台増加し、平成23年（2011年）現在、20,306台となっています。（図11）

図11 吹田市の乗用車登録台数



（平成24年版 吹田市統計書）